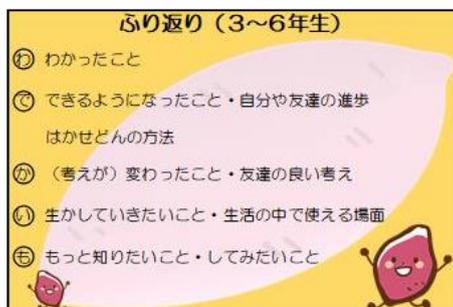


学習者主体の授業づくりに向けた「振り返り」の事例

学校名	南九州市立別府小学校	児童生徒数	113人
-----	------------	-------	------

振り返りをしている子供の様子や、振り返りの視点、振り返りの記述等



【写真①】「わかったこと」、「できるようになったこと」など、振り返りの視点を設けて、児童に振り返りをさせています。



【写真②】「今日の授業が分かった」に対する回答結果です。振り返りを通して学びの自覚化を促します。



【写真③】児童がロイロノート内で、板書の写真に大切なポイントを書きこんでいます。書きこみながら、本時の振り返りを行います。

図形を切ってつなげる方法ではなく、分ける方法。それと全体からいらない部分をひく方法。が、どんな図形でも面積を求められると分かった。他のもっと難しい図形でも試してみたいです。三角形などのほかの形でもできるのか調べてみたいと思った。

【写真④】児童の自由記述の結果です。授業で分かったことや、もっとしてみたいことが記入されています。

取組についての概要 (成果)

第4学年 算数科「面積」における実践

自分自身の学びの成果や課題を振り返るために、毎時間タブレットを活用して、選択式と自由記述式の振り返りをさせています。また、その際には振り返りの視点「わでかいも」(写真①)を参考にさせています。児童の振り返りの集計結果を確認し、担任が次時の授業へ生かせるようにもしています(写真②)。

また、振り返りの終わった児童にはタブレットのカメラ機能で本時のノートの記録、板書の写真を撮って、その写真に大切なポイントなどを書きこませるようにしています。そうすることで、短時間で授業1時間分の振り返りを行うことができます(写真③)。振り返りに取り組ませた当初は「わかったこと」や「できるようになったこと」の記述が多かったですが、今では「いかせそうなこと」や「もっと考えてみたいこと」に関する記述も見られるようになってきました(写真④)。さらに、多くの児童が本時の学習を通して自分自身が感じたことを、言語化できるようになってきており、表現力の成長が窺えます。

今後も振り返りの時間は設定していきませんが、単元終末だけ、小單元ごとなど意図的に設定回数を変えてみるなどの取組も行っていきたいです。